

2017年（平成29年） 4月21日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

4/6~4/12のNYMEX・WTIは51.70~53.40ドルの範囲で、堅調に推移した。

4月13日は、国際エネルギー機関(IEA)の石油市場月報が、OPECの減産の10%達成など産油国の協調減産が着実に実施され、石油市場は需給均衡に近づいていると報じたことから、反発した。ただ、ペーカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数が683基(前週比11基増)と13週連続増加の発表があり、上昇を抑えた。5月限の終値は前日比0.07ドル高の53.18ドルだった。

聖金曜日(14日)からの連休明け17日は、前週末までの3週連続の価格上昇の反動、あるいは、石油掘削リグの高稼働等、米国内での増産見通し等から反落した。5月限の終値は前日比0.53ドル安の52.65ドルだった。

18日は、数日來の米国の生産拡大懸念により、続落した。ただ、翌日の米国内在庫週報で前週比減少の観測、ドル安・ユーロ高による原油先物の割安感が下値を支えた。5月限の終値は前日比0.24ドル安の52.41ドルとなった。

19日は、米国エネルギー情報局(EIA)発表の米国ガソリン在庫が予想外に増加し、原油在庫も予想を下回る減少に止まったことから、改めて米国内の供給過剰感が広がり、持ち高調整の売りなども加わり、大幅続落した。5月限の終値は1.97ドル安の50.44ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(5月渡し)は、前週52.40~54.90ドルと、堅調に推移した。4月13日は54.20ドル、14日は54.00ドル、17日は53.80ドル、18日は53.80ドル、19日は53.00ドルで推移した。

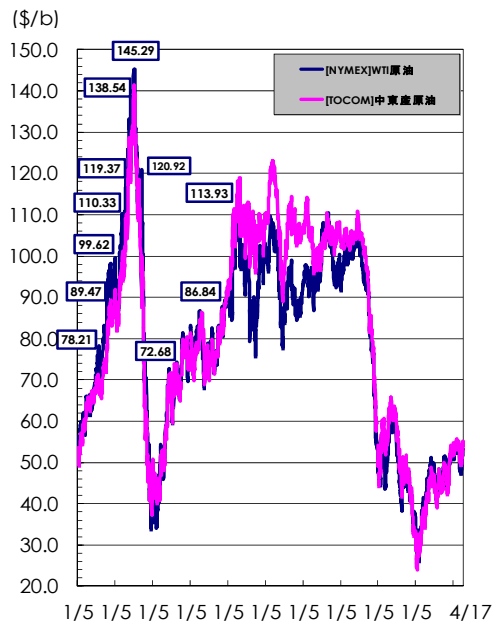
為替は、前週109.58~111.43円の範囲でやや円高に推移した。4月13日は108.83円、14日は109.22円、17日は108.29円、18日は109.19円、19日は108.56円で推移した。

財務省が20日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、3月下旬の原油輸入平均CIF価格は、40,260円/klとなり、前旬を139円下回った。ドル建てでは56.02ドルで前旬比0.62ドル安。為替レートは1ドル/114.25円。また、同日発表の貿易統計速報(月間ベース)によると、3月の原油輸入平均CIF価格は、40,171円/klとなり、前月を755円上回った。ドル建てでは56.13ドルで前月比0.88ドル高。為替レートは1ドル/113.77円。

主要元売会社の4月第4週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きだった。原油価格は値上がり、為替レートは円高でこれを相殺したが、原油調達コストは小幅に値上がりした。

そのような中で、4月17日時点の小売価格は、ガソリンが0.1円値上がりの134.0円、軽油は0.1円値上がりの112.3円、灯油は横ばいの77.7円だった。ガソリンは3週振りの値上がり、軽油も3週振りの値上がり、灯油は3週振りに値下がり止まった。この週(4月第3週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は1.0円の値上がりと横ばいに分かれた。

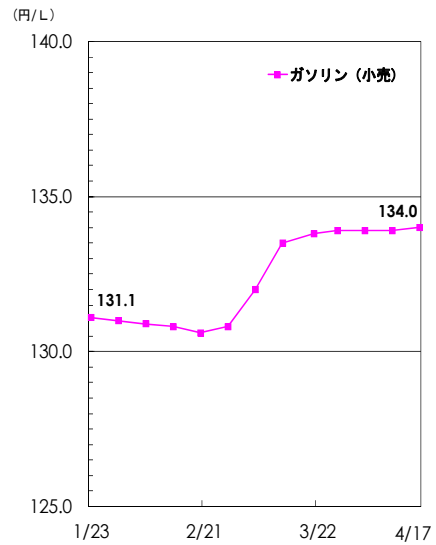
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/9 ~ 4/15	3,527 ▲ 41	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	90.1 ▲ 1.1	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	4/15	12,827 ▲ 351	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/ bbl)	4/17	54.23 ▲ 0.13	▲ 16.8
	WTI原油 (NYMEX) (\$/ bbl)	4/17	52.65 ▼ -0.43	▲ 12.9
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	3月下旬	56.02 ▼ -0.62	▲ 23.85
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	40,260 ▼ -139	▲ 17,368
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	114.25 ▼ -0.85	▼ -1.11
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/17	109.29 ▲ 3.14	▼ -0.28



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/9 ~ 4/15	1,012 ▼ -15	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	953 ▲ 22	▲ -	
	輸出	"	45 ▲ 19	▼ -	
	在庫	4/15	1,775 ▲ 13	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/11 ~ 4/17	52.7 ▼ -0.1	▲ 13.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/11 ~ 4/17	51.1 ▼ -0.2	▲ 10.1
		(TOCOM/中部)	4/17	50.9 ▼ -1.0	▲ 12.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/17	134.0 ▲ 0.1	▲ 17.4	

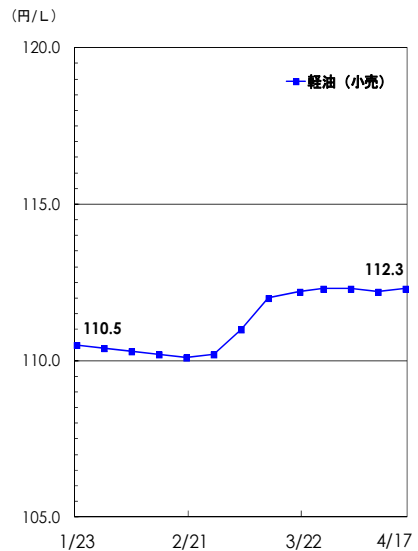
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

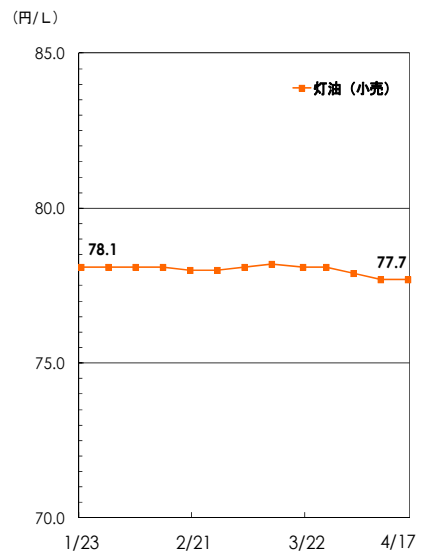
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/9 ~ 4/15	738 ▲ 40	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	590 ▼ -55	▲ -	
	輸出	"	92 ▲ 44	▼ -	
	在庫	4/15	1,501 ▲ 57	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/11 ~ 4/17	50.8 ▼ -0.1	▲ 14.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/11 ~ 4/17	48.0 ➡ 0.0	▲ 13.2
		(TOCOM/中部)	4/17	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/17	112.3 ▲ 0.1	▲ 12.9	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/9 ~ 4/15	248 ▼ -37	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	250 ▼ -115	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	4/15	972 ▼ -1	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/11 ~ 4/17	49.5 ➡ 0.0	▲ 14.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/11 ~ 4/17	46.9 ▲ 0.6	▲ 12.2
		(TOCOM/中部)	4/17	47.2 ➡ 0.0	▲ 14.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/17	77.7 ➡ 0.0	▲ 15.8	



■ 関連情報

1 海外/原油

4月19日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、米国内ガソリン在庫が市場予想(190万バレル減)に反し150万バレル増加、原油在庫も事前予想(150万バレル減)を下回る100万バレル減少を示したことから、ドライブシーズンを前に供給過剰感が広がり、大幅に下落、3営業日続落した。追従売りや持ち高調整の売りも価格低下に拍車をかけた模様。5月限の終値は前日比1.97ドル安の50.44ドル、6月限の終値は前日比2.00ドル安の50.85ドルだった。

EIAによると、4月17日時点のガソリンの小売価格は前週比1.2セント値上がりの1ガロン2.436ドル(70.2円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比1.5セント値上がりの2.597ドル(72.0円/ℓ)。ガソリン、ディーゼル共に3週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、4月9日～4月15日に休止したトッパー能力は26.8万バレル/日で、前週に対して6.6万バレル/日の減少(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は352.7万klと、前週に比べ4.1万kl増加。前年に対しては17.5万klの減少。トッパー稼働率は90.1%と前週に対して1.1ポイントの増加、前年に対しては2.9ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/1.4%減、ジェット/18.5%増、灯油/13.0%減、軽油/5.7%増、A重油/21.4%減、C重油/3.7%減。今週のC重油の輸入は6.7万kl(前週比3.2万kl増)。軽油の輸出は9.2万kl(前週比4.4万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、ジェット、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではA重油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は95.3万kl(対前週2.3%増)と2週振りに前週比で増加、2週連続で前年比で増加となり、11週連続で100万klを下回った。

ジェット9.1万kl(対前週27.4%増)、灯油25.0万kl(対前週31.5%減)、軽油59.0万kl(対前週8.5%減)、

A重油20.6万kl(対前週11.1%減)、C重油26.0万kl(対前週23.3%増)。

(単位:千KL)

	今週 (4/9 ~ 4/15)	前週 (4/2 ~ 4/8)	前週比	
ガソリン	953	931	▲ 22	(2%)
ジェット燃料	91	71	▲ 20	(28%)
灯油	250	365	▼ -115	(-32%)
軽油	590	645	▼ -55	(-9%)
A重油	206	231	▼ -25	(-11%)
C重油	260	211	▲ 49	(23%)
合計	2,350	2,454	▼ -104	(-4%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

4月15日時点の在庫は、灯油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、ガソリン、灯油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは177.5万kl、前週差1.3万kl増。前年に対しては7.0万kl少ない。

灯油は97.2万kl、前週差0.1万kl減。前年に対しては19.6万kl少ない。

軽油は150.1万kl、前週差5.7万kl増。前年に対しては4.0万kl多い。

A重油は79.2万kl、前週差0.9万kl増。前年に対しては2.4万kl多い。

C重油は192.3万kl、前週差2.7万kl減。前年に対しては13.4万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (4/15)	前週 (4/8)	前週比	
ガソリン	1,775	1,762	▲ 13	(1%)
ジェット燃料	986	926	▲ 60	(6%)
灯油	972	973	▼ -1	(-0%)
軽油	1,501	1,444	▲ 57	(4%)
A重油	792	783	▲ 9	(1%)
C重油	1,923	1,950	▼ -27	(-1%)
合計	7,949	7,838	▲ 111	(1.4%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

4月11日から17日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは円高だったが、原油コストは値上がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン106円台でやや軟化、軽油50円台で横ばい、灯油49円台でやや値上がりした。海上スポット価格は、ガソリン101～103円台、軽油47～48円台、灯油46～47円台で、灯油を除き値下がりした。先物価格は、ガソリン103～105円台でやや値下がり、軽油48円台で横ばい、灯油46～47円台で動いた。元売の卸価格は据え置きから1円値上げに分かれた。

JXTGエネルギーは4月20日、4月22日以降の外販スポット価格を、全油種、据え置きとする旨通知した。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストは値上がりしたが、製品スポット市況は、油種、市場によってバラツキが見られた。週間のガソリン販売量は、11週続けて100万klを下まわった。

4月第4週(4月20日～4月26日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(4月11日～4月17日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.1円、軽油は0.1円の値下がり、灯油は横ばいだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.0円、軽油は1.5円の値下がり、灯油は0.7円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.2円の値下がり、軽油が横ばい、灯油が0.6円の値上がりだった。原油価格は値上がり、為替は円高でこれを一部相殺したが、原油コストは値上がりとなった。

4月第4週の大手元売の卸価格は、据え置きだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (4/11～4/17)	前週 (4/4～4/10)	前週比
スポット価格	レギュラー	52.7	52.8	▼ -0.1
	灯油	49.5	49.5	➡ 0.0
	軽油	50.8	50.9	▼ -0.1

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (4/11～4/17)	前週 (4/4～4/10)	前週比
先物価格	レギュラー	51.1	51.3	▼ -0.2
	灯油	46.9	46.3	▲ 0.6
	軽油	48.0	48.0	➡ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (4/11～4/17実績値)		(単位: 円/%)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▼ -0.1	▼ -0.2	▼ -0.2	
灯油	➡ 0.0	▲ 0.6	▲ 0.3	
軽油	▼ -0.1	➡ 0.0	▼ -0.1	
A重油	▲ 0.2			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

4月17日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円値上がりの134.0円、軽油も前週比0.1円値上がりの112.3円、灯油は前週比横ばいの77.7円だった。ガソリンは3週振りの値上がり、軽油も3週振りの値上がり、灯油は3週振りに値下がりが止まった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは22都道府県、横ばいは8県、値下がり17府県であった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県の128.9円(前週比0.5円高)、次が千葉県の131.0円(同0.3円高)だった。最高値は鹿児島県の141.3円(同0.1円安)だった。都道府県別で、最も

値上がりしたのは前週比0.8円高の愛媛県(135.8円)、最も値下がりした県は同0.7円安の神奈川県(131.1円)と和歌山県(133.9円)、横ばいが大分県等の8県だった。

原油コストは値上がりし、元売りの卸価格は多数が1.0円の値上げとなり、2週振りにガソリン小売価格は小幅に値上がりした。原油価格は値上がり、為替レートは円高となり、これをわずかに相殺する形で、原油コストは値上がりした。今週の元売会社の卸価格は、据え置きだった。次週(4月24日)のガソリンと灯油の小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (4/17)	前週 (4/10)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	134.0	133.9	▲ 0.1	08/8/4 185.1
	灯油	77.7	77.7	➡ 0.0	08/8/11 132.1
	軽油	112.3	112.2	▲ 0.1	08/8/4 167.4

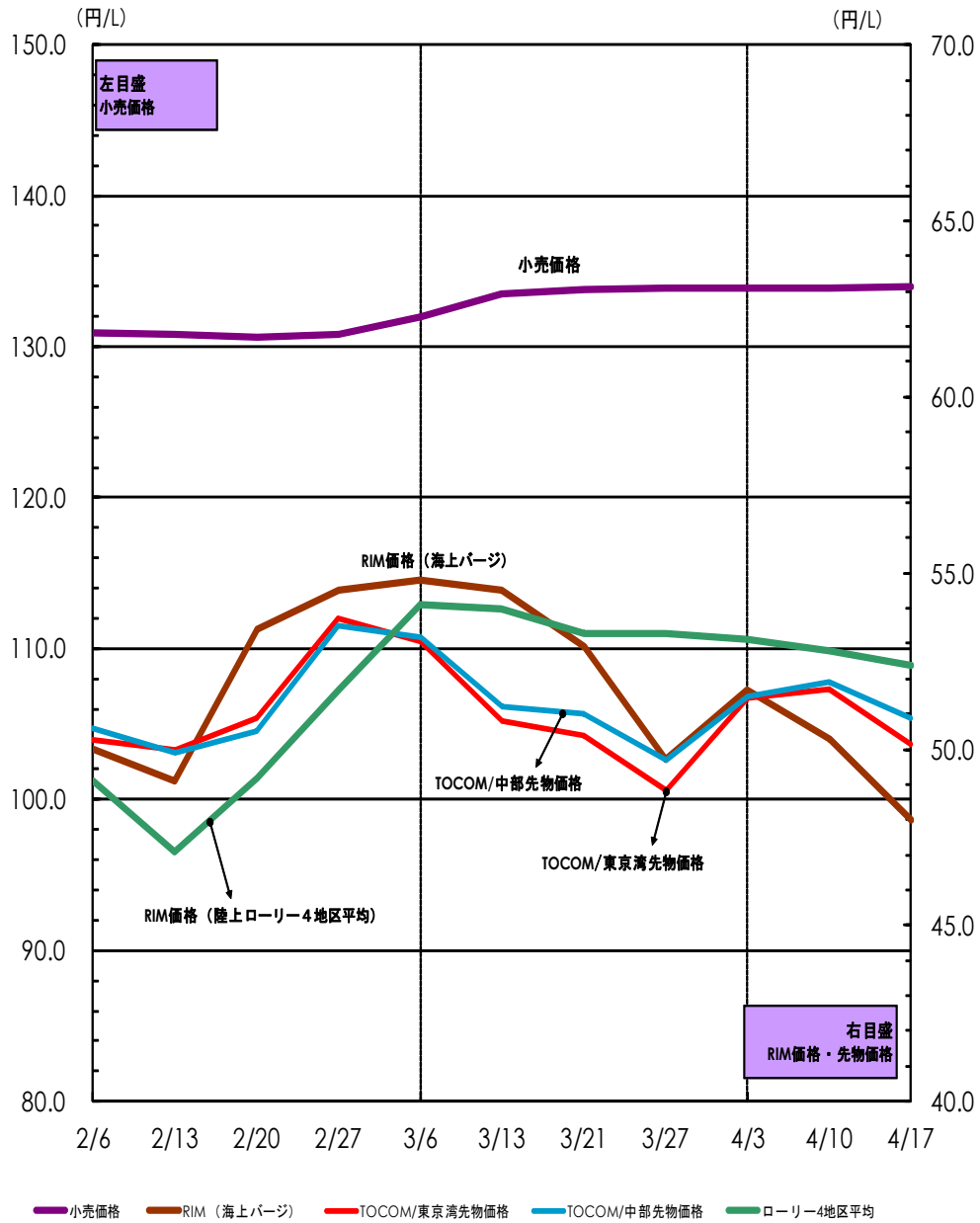
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2017/2/6 ~ 2017/4/17)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2017第4号)の公表は、4/28(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。